

創世記 39 創世記 26 章 1 節～33 節

「イサクの歴史」

イントロ：

1. 創世記の第8のトルドットは、創 25：19～35：29。「イサクの歴史」
2. イサクが主役になるのは、創世記 26 章だけである。
 - (1) 創世記 25 章 アブラハムの死とヤコブの紹介
 - (2) 創世記 27 章 ヤコブの物語
 - (3) 26 章の前はアブラハムの息子、26 章の後にはヤコブの父として紹介される。
3. イサクが一番長寿であった（180 歳）が、記録は最も少ない。
 - (1) アブラハムは 175 歳。
 - (2) ヤコブは 147 歳（創 47：28）。
4. どちらかと言うと、受身の人物（1 人のアブラハム、100 人のイサク）
 - (1) テレビ番組のゲストにはなりにくい人物。信仰の質は別問題。
 - (2) その生涯のほとんどの期間を、ネゲブ砂漠で過ごした。
 - (3) アブラハムとヤコブの橋渡し
5. 重要なのは、この章にアブラハム契約の再確認が 2 度出てくること。
 - (1) アブラハムは 8 人の子を得たが、イサクがアブラハム契約の継承者となった。
6. きょうの箇所とメッセージのアウトライン
 - (1) アブラハム契約の再確認
 - (2) アビメレクとの関係
 - (3) 井戸をめぐる争い
 - (4) 神からの祝福
7. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 人生の危機管理
 - (2) 臨機応変に対応すべきことと、曲げてはならない原則
 - (3) 偉大なる楽天主義

このメッセージは、危機の時代を乗り切る原則について学ぼうとするものである。

I. アブラハム契約の再確認（26：1～5）

1. 「さて、アブラハムの時代にあった先のききんとは別に、この国にまたききんがあった」

- (1) 創12:10に記録されたききんとは別のもの。
- (2) この時アブラハムは、エジプトに下る決心をした。
- (3) イサクは、ゲラルのペリシテ人の王アビメレクのところへ行った。
- (4) つまり、そこを經由して、エジプトに下ることを考えたのである。

2. アビメレクは、すでに創20章、21:22~34に出てきたが、そのアビメレクとは違う。

- (1) アビメレクという名称は、ゲラルの王の称号である。エジプトのパロと同じ。
- (2) 「ペリシテ人の王アビメレク」とあるが、当時ペリシテ人はその地にいない。
 - ①歴史を先取りした表現。後にペリシテ人が住むようになる地という意味。
 - ②ゲラルは、ペリシテ人の都市になる。
 - ③アビメレクというのがペリシテ人の王の称号となる。
 - ④Iサム21:10~15 ガテの王アキシユ(ペリシテ人の王のひとり)
 - ⑤詩34の前書き
「ダビデがアビメレクの前で気が違ったかのようにふるまい、彼に追われて去ったとき」

3. ゲラルは、創20:1でアブラハムが行った場所と同じ。

- (1) ゲラルは、約束の地の内側にある都市国家である。
- (2) イサクはまだ約束の地を去っていない。エジプト行きを考えている段階。

4. 神の顕現

「【主】はイサクに現れて仰せられた」

- (1) イサクへの初めての顕現。目に見える形での現れ。
- (2) アブラハム契約の再確認の最初のもの。
 - (3) 「エジプトへは下るな。わたしがあなたに示す地に住みなさい」
 - ①禁止命令:エジプトへは下さるな。アブラハムがしたことをまねてはいけない。
 - ②命令:約束の地に住め。約束の地から離れてはならない。
- (4) 創12:1でアブラハムは「わたしが示す地へ行きなさい」という命令を受けた。
- (5) ここでイサクは、「わたしがあなたに示す地に住みなさい」という命令を受けた。
 - ①すでにイサクは、その地に住んでいた。

5. アブラハム契約の条項が語られる。

- (1) 個人的祝福を受けるための土台
「あなたはこの地に、滞在しなさい」(新改訳)
「あなたがこの土地に寄留するならば」(新共同訳)

(2) イサクは約束の地の内側にとどまっていた。

6. 神は7つの条項を具体的に列挙された。

(1) わたしはあなたとともにいて

約束の地から出ることは、神の臨在から離れること。

(2) あなたを祝福しよう。

(3) これらの国々をすべて、あなたとあなたの子孫に与える。

①「国々」：少なくとも10のカナン人の部族によって支配されていた。

②都市国家は、それ以上の数存在していた。

③イサク個人と、その子孫への約束

④アブラハムに個人的に2度約束されたことが、イサクにも約束された。

(4) こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。

①この誓いは、創22：16～18に記録されている。

②アブラハム契約は、アブラハムの8人の息子の中のイサクだけに継承される。

(5) あなたの子孫を空の星のように増し加え

(6) あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。

①ここでも、「国々」となっている。

(7) こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。

①創12章、22章でアブラハムに約束されたことが、イサクにも約束された。

②いつか、霊的祝福がイサクの子孫（種）を通して異邦人に流れていく。

7. 祝福の理由

「これはアブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めと命令とおきてとおしえを守ったからである」

(1) アブラハムは、恵みにより、信仰によって救われた（創15：6）。

(2) 彼は、その信仰を行動で表した。

(3) 「戒めとおきてとおしえ」：モーセの律法はまだ与えられていない。

(4) アブラハム契約のもとで知られていた「神の命令」のことである。

II. アビメレクとの関係（26：6～11）

1. 「そこで、イサクはゲラルに住んだ」

(1) 主の命令に忠実に従った。ゲラルは約束の地の内側にある。

(2) ベエル・シェバやベエル・ラハイ・ロイに戻る必要はない。

2. イサクは父と同じ罪を犯す。

- (1) 妻を自分の妹だと言った。
- (2) アブラハムの場合は、半分嘘で半分本当。
- (3) イサクの場合は、真っ赤な嘘。
- (4) 嘘の原因は、恐れである。

「リベカが美しかったので、リベカのことでの土地の人々が自分を殺しはしないかと思ったからである」

- (5) 創世記には、妻を妹と偽る事例が3度出てくる。創12章、20章、26章。

3. 発覚の経緯

- (1) かなりの時間の経過がある。嘘が長い間ばれなかった。
- (2) 「ペリシテ人の王アビメレクが窓から見おろしていると、なんと、イサクがその妻のリベカを愛撫しているのが見えた」
「あるとき、ペリシテ人の王アビメレクが窓から下を眺めると、イサクが妻のリベカと戯れていた」（新共同訳）
- (3) イサクと「メツァヘック」に言葉遊びがある。
「イサクが妻のリベカをイサクっていた」
- (4) イシュマエルは、創21：9でイサクをからかった。「メツァヘック」である。
- (5) 「メツァヘック」は、否定的にも、肯定的にも用いられる言葉である。

4. アビメレクの追求と、イサクの言い訳

- (1) アビメレクは、イサクの嘘がいかにか危険なことであるかを指摘した。
「何ということをしてくれたのだ。もう少しで、民のひとりがあなたの妻と寝て、あなたはわれわれに罪を負わせるところだった」
- (2) 創20：1～18が、民族の記憶として残っていたのであろう。
- (3) イサクは言い訳をしている。

5. アビメレクの勅令

- 「この人と、この人の妻に触れる者は、必ず殺される。」
「この人、またはその妻に危害を加える者は、必ず死刑に処せられる。」（新共同訳）
- (1) 死刑は、カナン人の法律としては極めて厳しいものである。
 - (2) 創20章の事件が、民族の記憶に残っている。
 - (3) イサクの偉大さが認められていた。彼を呪うことは、自分が呪われることである。

Ⅲ. 井戸をめぐる争い

1. イサクの富

(1) 農業における祝福

「イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。【主】が彼を祝福してくださったのである」

①農業は、新しい試みである。これまでは、遊牧民。

②神がともにいるという約束は、成就した。

③ききんにもかかわらず、100倍の収穫があった。

④神の祝福の結果である。

(2) 個人的繁栄

「こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった」

①グレイト、グレイター、グレイテスト

(3) 富

「彼が羊の群れや、牛の群れ、それに多くのしもべたちを持つようになったので」

2. 結果として、「ペリシテ人は彼をねたんだ」

「それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸に土を満たしてこれをふさいだ」

(1) ききんという背景のもとで、命の源が断たれた。

3. アビメレクは、イサクにその地を去るよう要請した。

「あなたは、われわれよりはるかに強くなったから、われわれのところから出て行ってくれ」

(1) イサクは争うのではなく、その地を去ることにした。

「イサクはそこを去って、ゲラルの谷間に天幕を張り、そこに住んだ。」

(2) 「ゲラルの谷間」とは、ワジ・ゲラルである。

(3) 約束の地の所有権を約束されたイサクが、その地を去って放浪するのである。

(4) この約束の成就是、まだ先のことである。

4. 井戸掘り

「イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘ってあった井戸を、再び掘った。それらはペリシテ人がアブラハムの死後、ふさいでいたものである。イサクは、父がそれらにつけていた名と同じ名をそれらにつけた」

(1) イサクは、父がつけた名を覚えていた。

(2) 3つの井戸

①最初の井戸をワジで掘った。

*そこをエセクと名づけた(争う)。

②次の井戸を掘ったが、そこでも争いが起こった。

*そこをシテナ(シトナ)と名づけた(敵意)。

*「シツナー」とは「サタン」(ヨブ1:6)と同じ語源。

③3番目の井戸を掘った。

*そこをレホボテと名づけた(広い場所の複数形)。

5. イサクの結論

「今や、【主】は私たちに広い所を与えて、私たちがこの地でふえるようにしてくださった」

IV. 神からの祝福

1. ベエル・シェバに寄留

(1) 2度目のアブラハム契約の再確認

①ベエル・シェバに到着した夜

②イサクは、それに応答して祭壇を築いた。

③「主の御名によって祈った」とは、公の礼拝をしたという意味。

(2) 「彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべらは、そこに井戸を掘った」

①相当期間、そこに寄留したということ。

2. アビメレクとの契約

(1) アブラハムがアビメレクと契約を結んだのと同じ。

(2) 同じアビメレクではない。

(3) 3人で来たことは、彼らがイサクを恐れていたことを示している。

「そのころ、アビメレクは友人のアフザテとその將軍ピコルと、ゲラルからイサクのところに来て来た」

(4) イサクは、自分を追い出しておいて、なぜ今になって訪ねてきたのかと問う。

(5) 彼らは、イサクが主に祝福されているのを見て、イサクを恐れた。

(6) 不可侵条約の締結を求めている。

(7) 契約の食事と誓約

「次の朝早く、互いに誓いを交わした後、イサクは彼らを送り出し、彼らは安らかに去って行った。」(新共同訳)

(8) 彼らは、平和のうちに去って行った。

3. 新しい井戸

(1) 「ちょうどその日」 契約を結んだ日

(2) イサクのしもべたちが、新しい井戸を掘り当てた。

「わたしたちは水を見つけました」

①それまでは、水を買っていたか、遠距離を移動していたのであろう。

(3) 命名

「そこで彼は、その井戸をシブアと呼んだ。それゆえ、その町の名は、今日に至るまで、ベエル・シェバという」

①創 21 章 7 頭の雌の子羊 数字の「7」に強調点がある。

②創 26 章 「誓い」に強調点がある。

結論

1. 人生の危機管理

(1) 一喜一憂しない。

(2) 争わない。

(3) 一つの扉が閉ざされたなら、別の扉が開く。

2. 臨機応変に対応すべきことと、曲げてはならない原則

(1) 約束の地に留まる。神の臨在に留まる。

(2) これは、アブラハム契約を信じることである。

(3) 新約時代のクリスチャンは、イエス・キリストを通した契約を信じること。

3. 偉大なる楽天主義

(1) 人生は、もともと自分が考えた通りにならない。

(2) ユダヤ人の楽天主義から学ぶ。

(3) ロマ 8 : 28 の原則

(4) 詩篇 23 : 5 の祝福